

氏名	金 平 康 弘		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1043 号		
学位授与の日付	昭和54年6月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	下顎骨移植の血管像の変化に関する実験的研究		
論文審査委員	教授 大内 弘	教授 折田 薫三	教授 田辺 剛造

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

口腔領域において顎骨骨折・顎嚢胞・顎骨腫瘍・顎破裂などで、支持組織としての骨実質欠損の補填・修復の形成目的で骨移植をおこなうことが少なくない。なかでも腸骨移植は採取が容易で採取後の変形も目立たず、骨自体が適当な彎曲を有した海綿骨で骨新生も容易である点でしばしば利用される。

著者は、一旦栄養をたたれた移植骨が、母床骨の下歯槽動脈と骨膜血管とからいかに血液供給をうけ移植骨の骨改造がすすむのかを検索する目的で、成犬を用い、下顎骨移植の血管像の変化に関する実験的研究をクロロパーチャ血管注入法で形態的・立体的に観察し、さらに肉眼的・組織学的・X線学的にも検討し、以下の結果を得た。

- 1) 移植骨の既存血管の利用は認められなかった。
- 2) 骨移植後の血液供給は、術後5日目には既存の下歯槽動脈歯枝と数条の歯枝からの新生血管によってなされ、10日目から15日目には主として母床骨骨膜血管からの新生血管により、20日目には下歯槽動脈からの新生血管による血行路が出来、30日目には脈管的結合がほぼ完了した。60日目、90日目となるに従い毛細血管網は次第に疎な網目状構造を呈するに至った。
- 3) 毛細血管網の密度が減じて疎になり、下歯槽動脈からの新生血管の屈曲・蛇行がみられなくなり脈管的結合がほぼ完全になされた30日目には、移植骨の骨性癒合がなされ生着改造が旺盛になされていた。
- 4) 血管像所見、組織学的所見、X線学的所見において、ある程度の相関関係が認められた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は成犬を材料として実験的下顎骨欠損部へ自家腸骨移植を行なった後の血管像を研究したものである。移植後の骨組織改造・修復に伴う血行路の推移とその修復過程との関

連とに関して重要な基礎的知見を得た価値ある業績であると認める。
よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。